

授業科目名	劇場文化と舞台技術	担当教員	杉山 至 河村 竜也
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1年第3クォーター		
講義内容	この授業では、劇場文化を支えるための要事を、講義を中心に、また劇場施設内の機材等を実際に目にしかつ触れながら、学習する。具体的には、劇場での創作や実演を成立するためのマネージメントやスタッフワーク、舞台上や客席の機構・設備、大道具や照明や音響等の機材・資材・システムなどについて、講義と実見、使用を通じて学ぶ。それにより、劇場文化の根底に劇場の運営・管理・技術が深く関わっていること知り、またその知見の活用において必須の用語や安全性を習得する。		
到達目標	劇場文化とは何か、その社会的役割とは何かという本質的なことの認識とともに、劇場の文化を支える根底に、技術的な事柄や守るべき安全性のあることを理解し、また舞台や照明や音響等に関する基礎的な用語やシステムの組成について説明することができる。		
授業計画	<p>【1回目】劇場文化と舞台技術について：ガイダンスとオリエンテーション（概要説明）</p> <p>【2回目】プロダクションマネージャーと舞台監督の役割について：スタッフワークとチームビルディング（レクチャー&グループワーク）</p> <p>【3回目】ステージングについて：劇場の「舞台」に関することを中心に、劇場管理全般、大道具の機材・資材を含む、舞台の用語と安全性を学ぶ</p> <p>【4回目】ライティングについて：劇場全体および舞台の「照明」に関することを中心に、機材・資材、回路・結線等を含む、照明の用語と安全性を学ぶ</p> <p>【5回目】サウンドについて：劇場全体および舞台の「音響」に関することを中心に、機材・機器、信号変換・拡声システムを含む、音響の用語と安全性を学ぶ</p> <p>【6回目】舞台機構や制度からみた文化芸術の発信拠点としての劇場について：まとめと各パートやセクションの有機的関連について</p>		
事前・事後学習	参考文献を含めて、配布資料の予習・復習を入念にしておくこと		
テキスト	授業毎に資料を配布		
参考文献	「舞台技術の共通基礎」劇場等演出空間運用基準協議会 PDF あり http://www.kijunkyo.jp/img/archives/guideline2017_2020.pdf		
成績評価の基準	授業の参加態度 50%、レポートの充実度 30%、用語や安全性等の習得度 20%		
履修上の注意 履修要件	特になし		
実践的教育	該当しない。		

備考欄	劇場の機構や機材に触れることもあるので、服装等については指示をすることもあります
-----	--